

林業ぐんま



目次

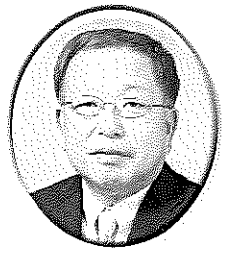
会長・環境森林部長挨拶	1
林政情報	2
令和三年度群馬県建設工事表彰 林業労働力確保支援センターから	3
林業労働力の確保に向けて 普及コーナー	4
第46回群馬県児童生徒木工工作コンクール お知らせ きのご品評会	5
各地のたより	5
(渋川) 「企業参加の森林づくり事業」 の森林整備活動を実施	5
(西部) ICTを活用した林分調査の試行 (藤岡) 神流町林業再生プロジェクトに おける「移住・定住」の取り組みについて	6
(富岡) 富岡高校一年生が職場体験学習 (吾妻) 森林整備ボランティア活動 (利根沼田) 沼田市が経営管理実施権の 設定を受ける事業者を選定	7
(桐生) わたらせ樹木育苗センターについて 地域を担う人	10
亀山 友幸さん 小林 秀夫さん 久保田嘉樹さん	11
森の談話室	11
県有林で働く人々(榛名県有林編その1) 森林・緑整備基金から	12
妙義に映えるさくらの里 トピックス	13
令和三年度 教育情報講習会を開催	13

新春

2022

「林業ぐんま」はホームページでもご覧になれます
<https://gun-fukyu.jimdofree.com/>

群馬県林業改良普及協会



群馬県林業改良普及協会長

狩野 浩志

新年明けましておめでとうございます。
皆様には、日頃から本会の運営に格別なるご支援、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて近年では、気候変動等の影響により、集中豪雨や台風等による自然災害が激甚化・頻発化し、各地で甚大な被害が発生しています。一方、一昨年の1月から始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、早くも二年が経過し、未だ社会・経済活動全般に大きな混乱が続いています。

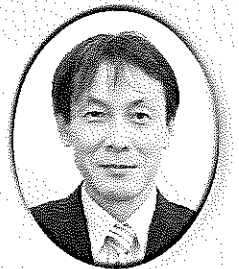
また、昨夏には、史上初の延期となった東京オリンピック・パラリンピックが開催され、メイン会場となった新国立競技場をはじめ各競技会場や選手村等の施設に、国産木材が使われた報道等が度々紹介され、森林・林業にとって明るい話題となったことは記憶に新しいところです。

頻発化・激甚化する山地災害の防止には、公益的機能を高度に発揮する継続的な森林整備が不可欠です。この森林整備を加速するため、林業経営を通じた森林整備やぐんま緑の県民基金事業等の公的森林整備などの取り組みを着実に推進することが重要であり、この健全な森林の整備・保全が、県民の安全・安心な暮らしの実現、更には地球温暖化の防止につながると考えます。

このような中「群馬県森林・林業基本計画2021―2030」が策定され、「自立した林業・木材産業」の実現を目指し、充実した森林資源の循環利用を促進し、林業産出額や山村所得の増加につながる施策を展開していくとのことです。当会といたしましても、会員の皆様とともに、この基本計画の目標達成に向け、積極的に行動したいと考えています。

現在、新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えず、林業・木材産業にとっても、需給の先行きが見通せないなど、厳しい状況が続いておりますが、全国の優れた取組み事例や最新の林業技術・生産システム等を皆様に紹介しながら、普及活動を通して森林・林業・木材産業の発展に少しでも寄与できればと願っております。

結びに、皆様のご健康と益々のご活躍、そして今年が皆様にとって良い年でありますことをご祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。



群馬県環境森林部長

岩瀬 春男

新年明けましておめでとうございます。
群馬県林業改良普及協会の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

近年、気候変動の影響等により、災害が激甚化・頻発化し、多くの犠牲者や被害が発生しています。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世界全体が大混乱に陥り、社会的にも経済的にも大きな打撃を受けています。

このような状況の中、本県では、20年後の本県が目指す姿を描く「新・群馬県総合計画（ビジョン）」において、「誰一人取り残さない自立分散型の社会」の実現を目指すこととしました。

本県は、木材の大消費地である東京圏に近く、県土の3分の2を森林が占める関東一の森林県で、森林資源が充実しているなどポテンシャルは高く、本県の林業・木材産業は大きく飛躍するチャンスがあります。

「群馬県森林・林業基本計画2021―2030」では、そのポテンシャルを発揮させ、飛躍への推進力を確かなものにするため、大胆な構造改革と産業基盤の強化によりコストの縮減と収益性の向上を図り、「自立した林業・木材産業」の実現を目指すこととしています。

また、「自然災害による死者ゼロ」や「温室効果ガス排出量ゼロ」など、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」を実現するため、森林の有する公益的機能の維持・増進を図り、災害に強く、持続可能な社会を構築します。

これらの取組を強力に推進することにより、2040年のビジョンとして示した森林資源と資金が林業・木材産業で循環する、「県産木材による自立分散型社会」を実現します。

本年も市町村や関係団体の皆様と連携し、本県の森林・林業・木材産業及びこの産業の発展のため全力で取り組んで参りますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

林政情報

令和三年度 群馬県建設工事表彰(知事・部長)受賞者

知事表彰(環境森林部) 2箇所 2社

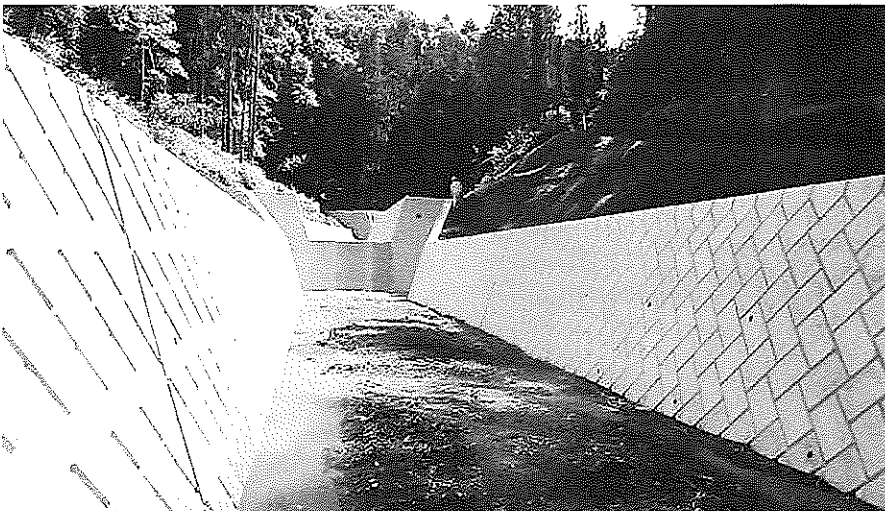
施工者	主任技術者	発注事務所	写真番号
石坂建設(株) 諸田 光二	加藤 房夫	利根沼田環境森林	①
備新井土木 新井 正則	大塚 孝二	桐生森林	②

環境森林部長表彰 6箇所 6社

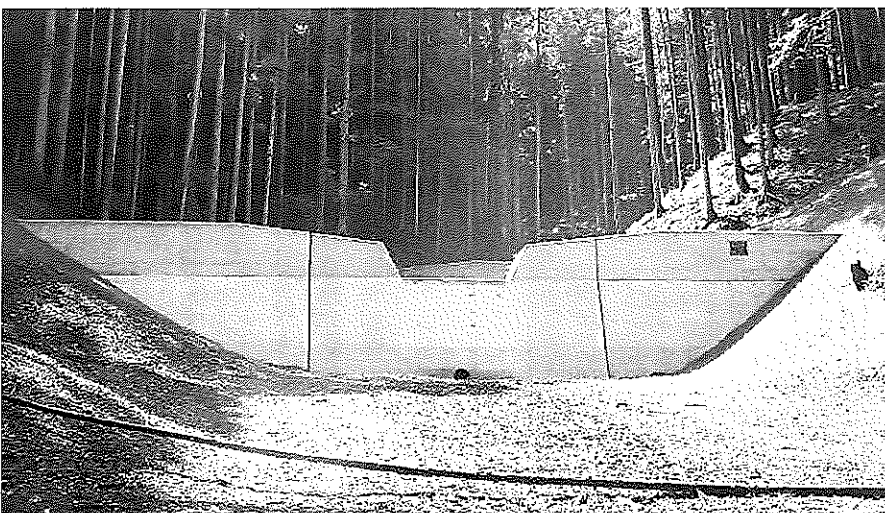
施工者	主任技術者	発注事務所	備考
(株)木暮組 木暮 唱	深代 優次郎	波川森林	
(株)萩原工業 萩原 哲也	石井 雅人	西部環境森林	
西毛建設(株) 橋島 幸正	小井戸 賢蔵	富岡森林	
(株)千島工務店 今泉 弘行	本多 幸一	吾妻環境森林	
石坂建設(株) 諸田 光二	加藤 房夫	利根沼田環境森林	
(株)椎坂建設 小林 好	田村 稔	利根沼田環境森林	

群馬県建設工事表彰は、県民の生活及び経済活動等の基盤となる社会資本整備を適切に推進するため、群馬県が発注した建設工事等を適正な工程管理と優れた施工技術によって、他の模範となる工事を完成させた建設業者及び主任技術者等を表彰することにより、品質の高い工事を確保するとともに、建設業等の発展及び施工技術の向上に資することを目的として、毎年、知事表彰、部長表彰、所長表彰を行っています。

令和三年度 群馬県建設工事表彰



①利根郡昭和村川額(清水沢)



②桐生市黒保根町上田沢(南平久保)

環境森林部発注工事に係る令和三年度の表彰工事は、令和二年度に完成した契約金額五百万円以上の対象工事二百五十五件のの中から、それぞれ品質管理・出来形・出来映え等の審査基準により、各審査会で厳正な審査が行われ、知事表彰二件が九月十六日、部長表彰六件が十月二十日、所長等表彰五十七件

は各発注事務所の表彰式で受賞の栄誉に輝きました。
受賞された皆様にご心よりお祝い申し上げますとともに、引き続き、安全第一で高品質の工事を完成していただくよう、御協力をお願いします。

(森林保全課)

林業労働力の確保に向けて

林業労働者不足が原因で、期日までの完成が難しくなったことや、仕事量のセーブが必要になったことがあります。

群馬県の有効求人倍率は、1.37倍（群馬労働局調べ十月末）です。求人数は増加傾向、求職者数は、減少傾向にあります。コロナ禍の影響から脱した企業の求人が増加しているようです。

林業労働力確保支援センターでは、県林業振興課、群馬県森林組合連合会と連携して、林業就業者確保のイベントへ参加をしています。十一月に行われた、森林の仕事のガイダンス（東京）では、三十一名、同（群馬）では二十六名の方が就業相談に訪れ、訪問者数は、コロナ禍前の水準に戻ってきています。東京会場では、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県首都圏地域に、多くの相談者が訪問していたのが特徴的でした。

イベント参加者から、一月末から行われる、県主催の林業就業支援講習に参加の希望をいただいていますので、林業就業者の増大に向けて、しつかり情報提供を行っていきたいと思います。

当センターが行っている事業体及び現場巡回訪問の情報として、仕事はあるのだけれど人手が足りない。求人を出しても応募がない等のお話を伺っています。国有林では、八〇〜一〇〇ヘクタール程度の大面積間伐事業が

発注されています。受注した事業体は、労働力不足を補うために、高性能林業機械の活用や協力会社を探すほか、ハローワークへ求人を出すなどしています。多くの事業体は、当面の仕事は確保できているため、年単位で仕事を発注するなどの工夫をしないと協力会社の確保が難しいようです。



東京会場の群馬県ブース

当基金による高性能林業機械貸し出し事業を活用し、地拵え機による省力化で人手不足対策にしようとして取り組んだ事業体もあり



繊維ロープを利用したグラップル集材

ました。地拵え機については、多くの事業体に関心を寄せているようです。また、労働強度の軽減策として、グラップルのワイインチに巻いてあるワイヤーロープを軽量の繊維ロープに替えて集材している事業体も複数ありました。今後とも林業現場での人手不足は継続すると思われ、林業事業体の要望に応えられるように人材確保に取り組んでいきたいと思えます。

普及コーナー

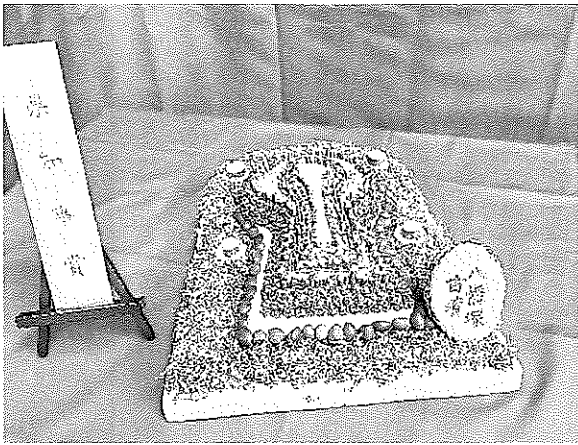
第四十六回群馬県児童生徒 木工工作コンクール開催

県内の小・中学生に「木材の良さ（温かさ・加工しやすさ等）」を知ってもらうために、木工工作コンクールを開催しました。

出品された作品は、全体的に低学年は木を大胆に使用し、木の質感や色合いがうまく表現された作品が多く、高学年になるにつれて、木を加工し、木の枝や木の実などをうまく利用した作品が多くなっています。

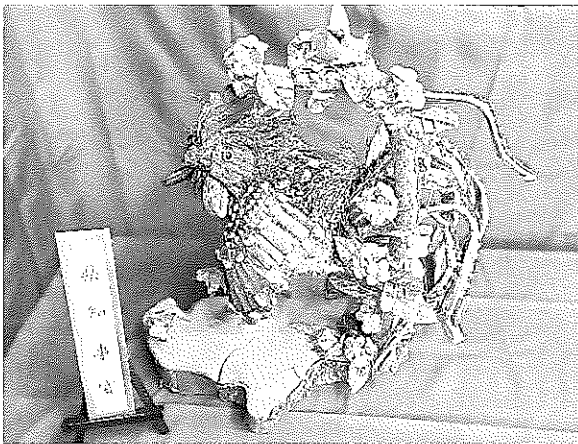
全作品を通して木の魅力が存分に表現され、多様な表現の面白さ、美しさを感じさせてくれました。

群馬県知事賞受賞作品は次の3点です。



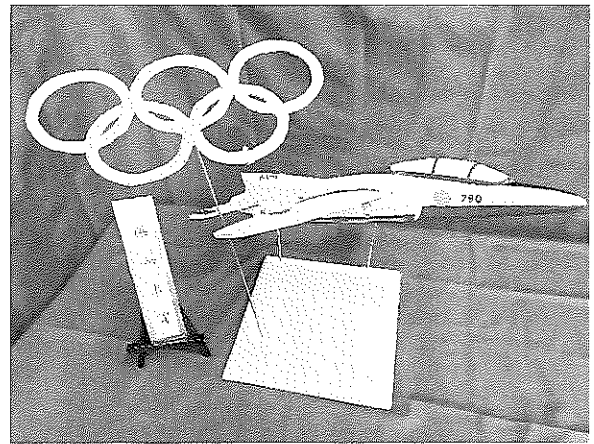
「八幡塚古墳」

高崎市立上室田小学校
黛咲 咲季葉さん(5年)



「雄鶏と花」

群馬県立中央中等教育学校
猪内 孔盟さん(3年)



「T4ブルーインパルスTOKYO2020」

渋川市立豊秋小学校
中澤 駿斗さん(6年)

お知らせ

11月12日(金)～11月14日(日)まで県庁一階県民ホール北側にて作品展示が行われ、延べ850人の来場がありました。

き の こ 品 評 会

群馬県産きのこの品評会を開催します。2日間の日程で、審査(2月1日)、表彰式・出品物の展示・きのこの一般販売・展示品の即売(2月2日)が行われます。即売日には、厳選されたきのこをお買い求めいただけますので、是非足をお運びください。

なお、開催場所が例年と異なりますので、ご注意ください。

日程…令和4年2月1日(火)・2日(水)

場所…群馬県J A ビル 大ホール

前橋市亀里町一三〇番地

問い合わせ先…林業振興課きのこ振興係

TEL 027・226・3234

の便り

「企業参加の森林づくり事業」の 森林整備活動を実施

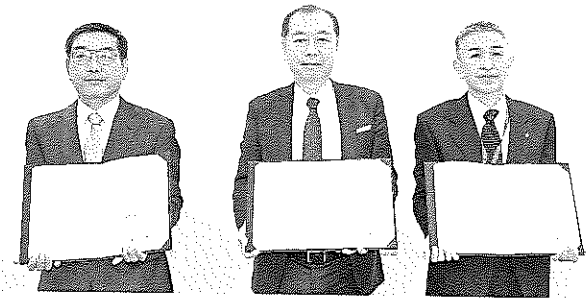
群馬県では社会貢献として森林整備ボランティア活動をしたい企業・団体等と、自らの手ではなかなか整備できない森林所有者の間を、県が仲介者となつて森林整備協定を結び、群馬県の森林を多くの手で守り育てる取り組みを行っています。

渋川森林事務所管内では、令和3年11月10日に、株式会社日本キャンパックと森林所有者、仲介役である群馬県の3者で前橋市苗ヶ島町の「みやぎ千本桜の森公園」に隣接する約2.7haの森林で森林整備協定を締結しました。

この協定に基づき、11月26日に第1回の森林整備活動を実施しました。この活動では、赤城南麓森林組合及び

森林整備等活動協定調印式

株式会社日本キャンパック・森林所有者代表・群馬県



協定調印式の様子

みどりのインタープリターの指導のもと、下刈作業が行われました。今回の活動には社員の方のみならず、社長や取締役執行役員の方々も参加されました。下刈を実施した箇所には令和4年の春に桜が記念植樹される予定です。



参加された皆さん

今後の活動としては、植栽箇所の下刈りと周辺森林の間伐等を行っていきます。

本協定箇所は群馬県を代表する桜の名所である「みやぎ千本桜の森公園」の隣接地であるため、本協定の森林整備活動は森林公園の優れた景観の維持にもつながり、お花見客が愛着を持ち、再び訪れたいと思う契機を与える重要な役割もあると考えられるので、株式会社日本キャンパックの皆様には引き続きの森林整備を期待したいと思います。

(渋川森林事務所通信員)

ICTを活用した 林分調査の試行

鳥川流域森林組合は、スマート林業の実現に向けた取組みを開始しました。まず、取組みの一つとして、搬出材積のより正確な予測のため、地上レーザ計測器を利用した森林調査の実証試験を行いました。

群馬県から「工程分析調査業務」を受託し、業務の一部として地上レーザ計測器を10日間レンタルし、皆伐・再造林地で森林調査を実施しました。調査面積は、約1ヘクタールで、従来のプロット調査と地上レーザ計測器の工程分析を行い、省力化についても検討しました。

地上レーザ計測器の利用は今回が初めてのため、メーカーから操作方法やデータの種別や取扱い方などのレクチャーを受けました。プロット調査は、鋸屋式密度管理法によ



機器操作のレクチャー状況



調査結果の分析レクチャー状況

るプロットを7箇所(700平米)、地上レーザー計測器による調査は、10メートルの格子状に144点計測しました。

工程分析の結果、地上レーザーを使用した場合へクター当たり約1.5人工で、従来の調査方法では約2.5人工となりました(面積換算値、樹高は全数ではない)。

設計書や所有者への見積書の作成には、従来の方法では調査結果をエクセルに入力し集計する作業が必要でしたが、地上レーザー計測器は、多種の情報がデータとして得られ、計測データをすぐに活用することが可能です。

3D解析や立木の位置情報、大きさの把握も可能であり、集計や解析、所有者への見積書作成など、活用幅は大きいですが、導入費用が高額であるという短所もあります。立木補償などで伐採前の立木の状態を詳細にデータで残しておきたい場合には有効活用できそうです。「ここまで」の詳細情報は今まで不必要と思ってきましたが、目に見える詳細情報も必要とされる時代になってくるのかなと思う」と森林組合の技術員は話していました。



(西部環境森林事務所通信員)

神流町林業再生プロジェクトにおける「移住・定住」の取り組みについて

神流町の、豊富な森林資源を活用した地域振興や林業再生を図るための「神流町林業再生プロジェクト」について、2021夏号(No.216)に続き、「人材の発掘・確保・育成・定着」一部会における移住・定住の取り組みを紹介します。この部会では、

○人材の発掘・確保のため、有料求人サイトを活用した就労者募集や、町内の個人事業主や近隣事業体との労務提携の推進

○人材の育成のため、本格的な林業を学べる場として町の森林や木材を提供

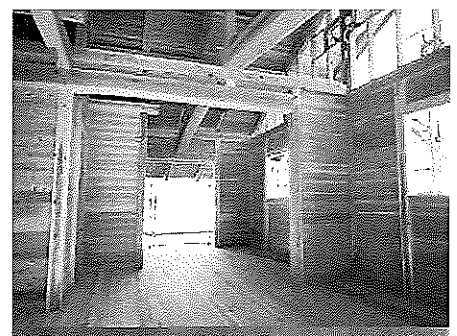
○人材の定着を図るため、働きがいのある職場環境づくりや職員受入体制の整備

を行い、神流町の基幹産業である林業の担い手不足の解消を目指し、町の移住・定住の促進に取り組んでいます。



改装した食堂

部会の主な取り組みとしては、令和三年三月に神流川森林組合の職員募集動画を作成して、YouTube



職員住宅内部(板倉工法)

eにアップロードし、新たな人材の募集を行いました。取組成果として新たに2人の人材が確保でき、森林組合の森林施業プラン

ナーは3人となりました。また、就業環境整備のため、町の補助を受けて、森林組合の職員食堂・浴室のリフォームを行いました。

今年度は、神流川森林組合が町の補助を受け、組合職員の確保・定住のために単身者向け木造住宅を建設しております。この住宅は、森林組合が伐採した町産材を、町の支援を受け導入した簡易製材機により製材して、伝統工法である板倉工法により建築しています。部会が研修の支援を行っている大工志塾が、研修として上棟までを行いました。伝統工法による木のぬくもりを生かした魅力ある住宅を整備することにより、移住・定住が促進することを期待しています。

今後もプロジェクトの一環として、町産材を活用した町営住宅を建築し、移住・定住の促進を行っていく予定です。

(藤岡森林事務所通信員)

の便り

富岡高校一年生が 職場体験学習

十一月九日から十一日までの三日間、富岡高校一年生の生徒三名が富岡森林事務所で職場体験学習を行いました。生徒三名は、一日目は県有林の施業、二日目はさきの生産現場に同行し、学習しました。

そして、三日目は、下仁田町の山林で造林補助事業の検査への同行と、下仁田町森林組合石測貯木センターを見学しました。

造林補助事業の検査では、下仁田町西野牧地内のスギ造林地を皆伐し、広葉樹（コナラ・クヌギ）を再造林（三〇六杉）した箇所の現地検査に立会いました。検査では、下仁田町森林組合の職員から説明を受け、植栽面積、苗列間距離、獣害防護柵の作設延長が正しいか確認しました。下仁田町森林組合職員から、現在は、デジタルコンパスを使用しているのので、アナログコンパスを使用していた頃に比べると測量業務が軽減されているとの説明を受けました。

昼食後、下仁田町森林組合の石測貯木場を見学しました。森林組合の担当者から貯木場の説明を受け、一部のスギ大径材が、町内の製材所で板材に加工され、アメリカやカナダにフェンス材として輸出されているとの説明を受けました。その後、スギ一山の価格の当

てつこクイズを行いました。生徒たちの予想よりも低い価格に大変驚いていました。



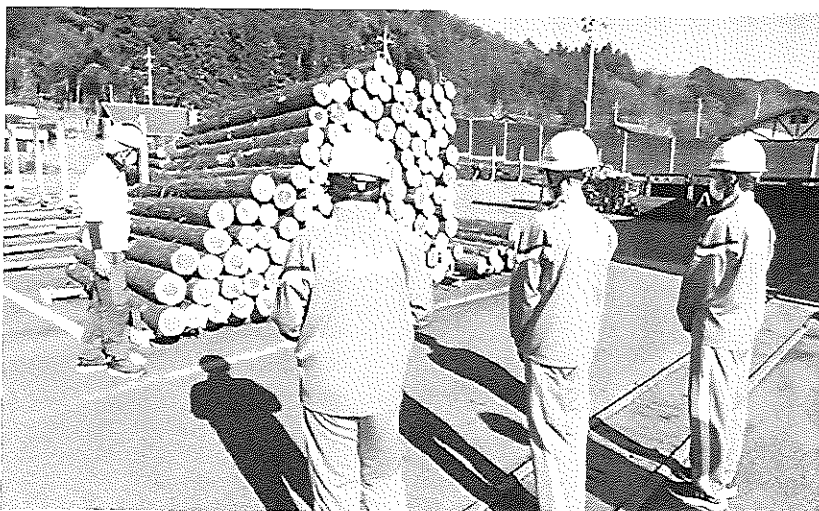
デジタルコンパスで距離測定

森林事務所に戻り、生徒たちが今回体験先に富岡森林事務所を選んだ理由を聞いてみたところ、理由として、「環境問題に興味がある」「将来は地元での就職を考えている」との回答がありました。また、体験学習の感想として、「教科書では学べない森林・林業の話が聞けて良かった。山の斜面にテレビ番組」は

つんと一軒家」のような家があり印象に残った」などがありました。

最後になりますが、生徒たちは甘楽富岡地域の森林・林業への関心を高める有意義な機会となったようで、三人の中からこの地域の林業後継者が育ってくれることを期待しています。

（富岡森林事務所通信員）



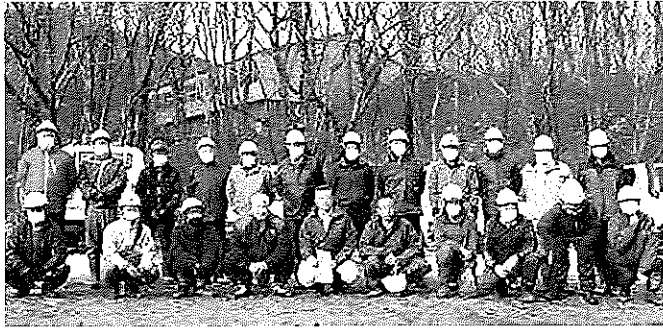
石測貯木場見学

森林整備ボランティア活動

令和三年十一月二十九日に群馬県森林土木建設協会吾妻地区による森林整備ボランティア活動が、吾妻郡高山村の「北毛青少年自然の家」の南側の森林において行われました。

この活動は、群馬県「企業参加の森林づくり」の取組として同協会、森林所有者である高山村及び群馬県の三者間で結ばれた、「森林整備等の活動に関する協定」に基づき行われました。同協会吾妻地区では、平成十八年から活動を行っており、現行の協定期間は令和五年度までとなっております。

当日は、午前九時に協会員十七名、高山村から三名、吾妻環境森林事務所から三名の総勢二十三名が参加しました。作業開始に先立



作業に従事した参加者

ち、森林土木建設協会吾妻地区の竹内理事、高山村の後藤村長、吾妻環境森林事務所の佐藤所長から、「協定締結や森林整備活動の実施についてのお礼や作業の安全」について、それぞれ挨拶が述べられ、その後、作業が開始されました。

現地は、前日に降雪があったため、道路脇には雪が少し残っていましたが、林内にはほとんど雪もなく、それぞれが持ち込んだ刈り払い機や鎌で、繁茂している笹の刈り払いやつるの除去を行いました。一部には、人の背丈ほどの笹やぶがありました。参加者全員が手際よく作業を行ったこともあり、二時間程度で見通しの良い森林になりました。今後は、林間学校をはじめ野外活動等に訪れる多くの人が、ちが清々しい気持ちで散策出来ることとでしよう。



森林内の刈り払い作業の状況

(吾妻環境森林事務所通信員)

沼田市が経営管理実施権の設定を受ける事業者を選定

平成三十一年四月から森林経営管理制度がスタートして三年目を迎えました。管内市町村においても地域の実情に合わせた取り組みが進んでおり、ペースも早まってきました。十一月十六日には、沼田市において経営管理実施権の民間事業者選定委員会が開催され、審査の結果、利根沼田森林組合が管内で初めて経営管理実施権の設定を受ける事業者に選ばれました。今後、経営管理実施権配分計画の公布を経て、当森林組合に経営管理実施権が設定される見込みです。

森林経営管理制度は、経営管理が行われていない森林について市町村が仲介役となり、森林所有者と担い手を繋ぐ仕組みです。林業経営に適した森林は地域の林業経営者に再委託するとともに、林業経営に適さない森林は市町村が公的に管理する制度です。

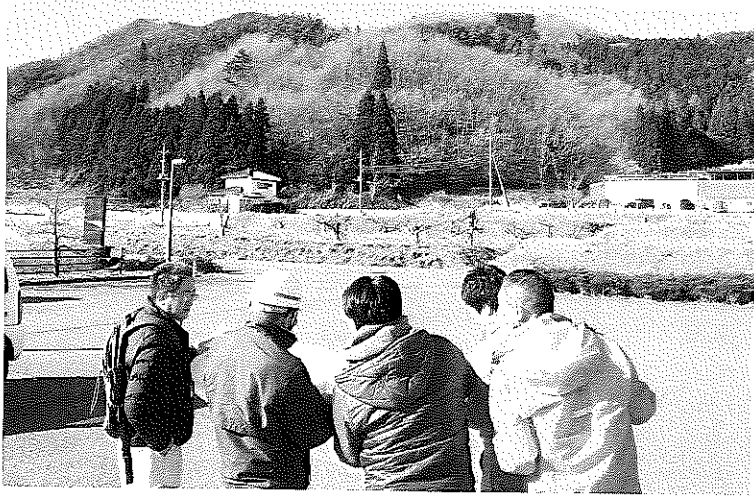
今回制度の対象となった沼田市内下発知地区においては、令和元年十一月に意向調査を実施し、令和二年八月に境界明確化の業務を群馬県森林組合連合会へ委託しました。今年三月には約十八haの森林経営管理権を設定し、八月から民間事業者に企画提案を募集していました。

沼田市の取組の特徴は、今後の制度への理

各地の便り

解や協力を得やすくするため、集落に近く市民の目に留まるところから着手していることと、民間事業者選定において経営管理実施権の設定を希望する森林のまとまりと広さを重視していることです。

森林経営管理制度を円滑に進めていくためには、知識やノウハウの蓄積、共有が重要となります。引き続き、沼田市が管内の先駆けとなって取り組むことで、他の町村で森林経営管理制度が進むよう支援をしていきます。



現地での打合せ

(利根沼田環境森林事務所通信員)

わたらせ樹木育苗センター

県内における山行苗木の安定供給を図るため、平成三十年四月よりみどり市東町に住友林業株式会社わたらせ樹木育苗センターが開設され、年間十万本のカラマツのコンテナ苗木生産を行っていることから、その概要について報告します。

戦後植林を

行った森林は全国的に伐採期を迎え、国産材利用の機運が高まる一方で再造林用の苗木が不足しています。住友



出荷作業

林業はこれからの苗木不足の解消に向けて現在全国に六施設を保有し、年産百九十万本の生産体制を整備しています。

当センターの敷地面積は約二平方キロ、主に育苗・作業棟と屋外養生スペースに分かれており、小面積での大量生産と苗木の品質向上を目指しています。生産工程は、カラマツ種子を同社の岐阜樹木育苗センターで発芽させ、幼苗を当センターでコンテナ容器へ定植するという複数拠点間の連携方式を採用し、

発芽工程を別拠点で行うことで労働負担を軽減しています。また、暖房機として地元材を利用したペレットボイラーの導入や、出荷時などの繁忙期には地元で雇用の場を提供するなど地域に対しても貢献しています。

一方、カラマツの結実量は豊凶差が大きいこともあり、群馬県ではカラマツ種子の配布をできていない状況にあります。当センターでは北海道の自社有林などから採取した種子から苗木を育苗しているため、カラマツ苗木の成長過程を長期的に観察する必要があることから、連携しているみどり市有林において植栽試験を行っています。調査は森林事務所職員も交えて行っており、成長は良好で獣害も少ない傾向にあることがわかっています。

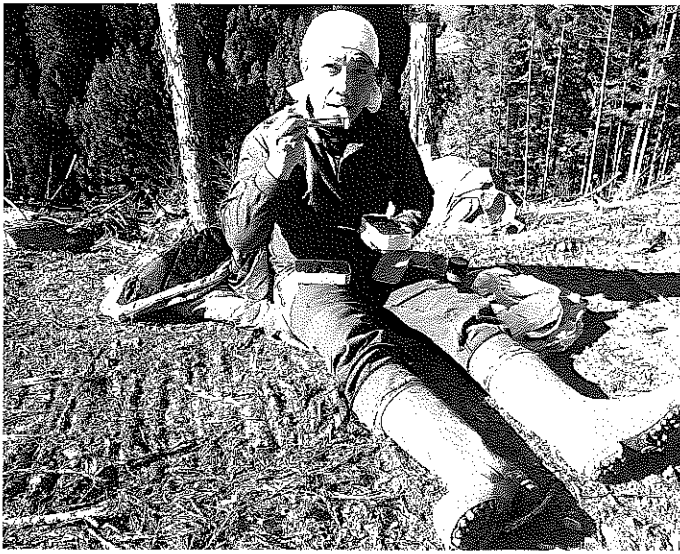
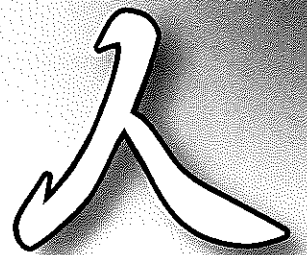
当センターは稼働して四年目ですが土づくりや散水管理に独自の工夫を重ねていることから苗木の評価も良く、県内取引も年々増加しています。カラマツのコンテナ苗木の安定的供給体制が整っている当センターへの期待は益々高まっています。



苗木の調査状況

(桐生森林事務所通信員)

地域を担う

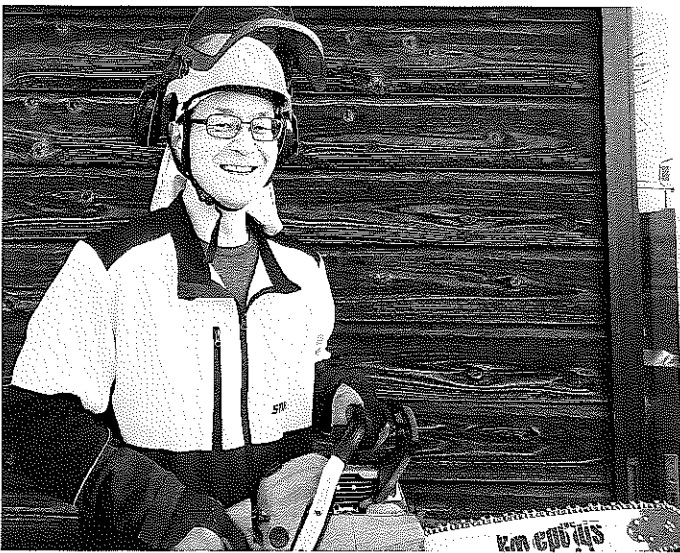


上野村森林組合 亀山 友幸さん

- 一 趣味 ドライブ・料理・旅行
- 二 今後の抱負

安全に仕事ができる技術を高めていきたいと思っています。

「ゼロ災で行こうヨシー！」



あかぎの森 小林 秀夫さん

- 一 趣味 映画鑑賞
- 二 今後の抱負

造林、育林は重労働で危険を伴う事もありますが、安全第一を心掛けて作業をしています。

山林を守り育て、豊かな自然を次世代に繋いで行きたいと考えています。

SDGsにも積極的に取り組んで行こうと思っています。



原澤林業株式会社 久保田嘉樹さん

- 一 趣味 バスケット、スノーボード
- 二 今後の抱負

周りの先輩方と話し合っって、事故や怪我なく安全に現場をこなしていけるようにしていきたい。

また、常にスキルアップすることを心がけていきたい。

森の談話室

県有林で働く人々

(榛名県有林編 その1)

伊香保経営区担当巡視員 石田 実さん



巡視員 石田実さん
(榛名県有林内 臥牛山の山頂前にて)

3話目となるこのシリーズ。今回は榛名県有林伊香保経営区担当の巡視員 石田実さんを紹介します。石田さんは、昭和25年生まれの71歳、出身は旧子持村です。性格は温和で、控えめな語り口でも的確なアドバイスは経験に裏打ちされていて、言うなれば「頼り甲斐のあるオヤツサン」といった存在です。身長155cm、体重50kgで、学校では一番小柄でしたが、力には自信がありました。日頃から養生に努め、体重は若い頃と殆ど変わりません。平成27年に巡視員となり現在7年目。前職は渋川広域森林組合造林班の班長でした。石田さんが転職して森林組合に入ったのは51歳のことで、当時は高性能林業機械の導入も

なく、1班4人の作業班を、3班組んでいました。

就業当時の作業班員達は、皆腕のいい人ばかりで、未経験者は肩身の狭い思いをしました。刈払機の使い方さえ知らず、地際からキレイに刈れずに怒られることもありました。植付では1日に何百本も植えなければならぬのに、硬い地山を掘るのは骨が折れました。もちろんチェーンソーも使ったことは無かったのですが、先輩から譲り受けたチェーンソーが大きく重たくても、先輩方も使っていたので、自分も同じ様に使わざるを得ませんでした。それでも森林組合での仕事を大きな怪我無く終えることができました。これは無理をせず、常に予測をし、危険を感じたらなら一度手を止め、確認し直して作業に取りかかるよう心掛けていたからだと感じています。

石田さんの話を聞いて、五十歳代から山林作業へ転職したにも拘わらず、よく定年まで勤めあげたものだと感じて心当たりを聞くのと、若い頃から力仕事に就いたので、体力に自信があったとのこと。石田さんは若い頃、農業(コンニャク芋の生産や養蚕)に従事し、この頃冬場の農閑期には、スズキのフロンテに乗って横浜のコンニャク芋を製粉する工場まで出稼ぎに行きました。仕事は、コンニャク芋の荷下ろしや積み直しで、大層体力が必

要でした。その後は30年間ほどに鉄筋工に従事しました。鉄筋工は太くて重たい鉄筋を何本も担がなければならず、時には建築中の建物に棧橋まで架けて4階へ担ぎ上げることもありました。昭和40年代半ばには、群馬大学荒牧キャンパスの建設にも携わっています。

この頃も仕事で怪我をしたことはありません。

鉄筋工を辞めた後に森林組合の門を叩きました。



石田さん手作業の法尻丸太柵工
(榛名県有林内 林道蛇ヶ岳線地内)

した。力仕事には自信があったのでなんとかなると思ったのと、家族もあり(妻と子供二人)収入を得るため、まだ小さかった子供のことを思いながら辛抱を重ねて頑張ったのです。「若い林業従事者は早く家庭を持ったら」とのアドバイスがありました。

石田さんの経験談は、とても意味深く感じられ、この話を、林業従事者の新規就業やよい良い労働環境づくりに生かせられたらと、心に深く刻むことにしました。

(渋川森林事務所通信員)

森林・緑整備基金から 妙義に映えるさくらの里

〈概要〉

日本三大奇勝の一つに数えられる妙義山麓の標高七百メートルに位置する森林公園「さくらの里」は、県民のレクリエーションの場の提供、地域振興に貢献することを目的に、昭和五十八年の開園から、約四十年近くの歴史があります。

さくらの里は47畝という東京ドーム約十個分に相当する面積があり、四十種類以上の桜が約四千本植えられています。特にソメイヨシノ（写真1）や、八重咲きのカンザンが多く植えられています。開園以来多くの方が足を運び、四月から五月の桜の開花期においては、来園者数が五万人を超える一つの観光地となっています。

〈特色〉

標高が高い場所に位置することから、都心で桜が散り始めても、さくらの里ではまだ桜が開花していないこともあります。そのため開花期には、桜をもっと長く楽しみたいということから、近隣県からの来園者も多いです。また秋に花が咲く冬桜や十月桜といった四季咲きの桜も植えられており、紅葉できれいな妙義山を臨みながらの散策も楽しむことができます。



写真1 妙義山背景のソメイヨシノ

当基金では来園者の方に、よりさくらの里を楽しんでもらえるようイベントを企画しています。イベントは、桜の専門家による桜の特徴を解説しながら開花した桜を観察する観察会、プロの写真家による桜や紅葉の良い写真の撮り方を講義してもらおう写真教室、草木染の先生による桜から抽出した染料で染色体験をする草木染教室（写真2）といったものです。

〈管理〉

さくらの里は開園当初、県の直営であり、平成十一年に群馬県林業公社に管理が委託され、平成二十六年より群馬県森林・緑整備基金に管理が委託されました。

当基金では、昨今の新型コロナウイルス蔓延下でも、来園者の皆様が安心して楽しめるよう取り組んでいます。



写真2 イベントの様子(草木染教室)

トピックス

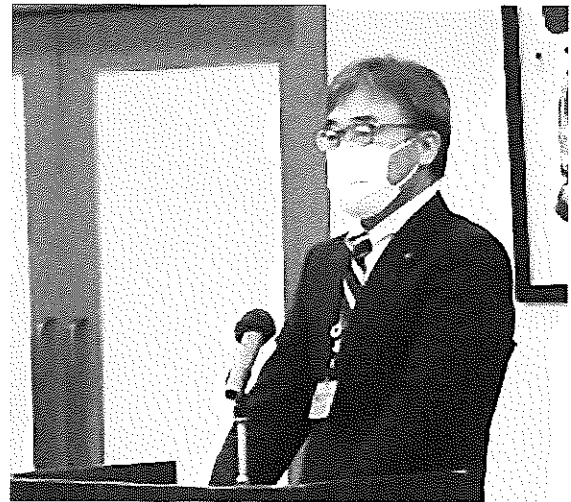
令和三年度 教育情報講習会を開催

令和三年十一月十一日、渋川市内の塚越屋七兵衛において、森林土木建設業の会員をはじめ関係者49人が参加し、小山兼広環境森林部森林局長、山藤浩一県森林土木建設協会会長を来賓にお迎えして、本年度の教育情報事業講習会を開催しました。



あいさつ 狩野浩志会長

関口功理事の開会宣言に続き、狩野浩志会長のあいさつ、来賓の小山局長、山藤会長の祝辞をいただき、講習会が始まりました。講習会では、はじめに多胡林政課長より林道事業関係の予算について、自立した林業・木材産業によって森林資源と資金が循環する自立分散型社会の実現を目指すための「群馬県森林・林業基本計画」について、林道等の路網整備の取組について説明がありました。



祝辞 小山兼広 環境森林部森林局長

次に、高山林業振興課長から、県産木材による自立分散型社会の実現を目指すため、木材生産・流通・加工・需要の拡大、きのこ生産振興、森林組合等の林業事業体の経営強化、林業労働力強化の取組について説明がありました。

最後は、天田森林保全課長が、治山事業に関する当初予算、令和二年度発生 of 山地災害への対応体制、森林土木事業の要綱・要領の改正について、そのほかぐんま緑の県民基金事業、緑の募金のお祝い等、多岐にわたる分野の説明がありました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催時期を延期した中での開催となりました。昨年度と同様に、いわゆる



講習会の様子

3密を防ぐため、大型会場の設定やソーシャルディスタンスを保つことができる座席の配置等を行い、参加者には検温、手指の消毒、マスク着用等の対応をお願いした中で行われました。そのような厳しい環境下での開催にもかかわらず、大勢の参加とご協力をいただき、無事に開催することができました。ご出席いただきました来賓の方々、講師の方々、並びに会員の皆様に心から感謝申し上げます。

月刊 林業新知識

山林所有者の皆さんと、ともに歩む月刊誌です。

山林の資産管理、林内栽培ビジネス、造林、育林、間伐などの森づくり技術、道具の使い方・工夫など、実践に役立つ情報が満載。読者と一緒に作る月刊誌です！

全国林業改良普及協会 編
B5判 24頁 一部カラー

毎月、山林所有者のご家族が表紙に登場します



こんな内容がお読みいただけます。

山林の管理方法

- ・山林所有者家族の山林活動紹介(後継者・夫婦)
- ・林業経営ノウハウ
- ・山菜・キノコなどの栽培、加工、ビジネス
- ・施業技術
- ・後継者対策
- ・森の楽しみ方
- ・山林管理や地域・家族のお悩み相談室
- ・木工クラブト
- ・林研グループ活動
- ・木材市況、ほか

山仕事の実践者へ

- ・安全で効率の良い作業技術
- ・初心者向けの自伐ノウハウ
- ・チェーンソー、道具の使い方や工夫
- ・安全用具、ほか

試作を繰り返して販売へ

かかり木のけん引システム(実演例)

月刊 現代林業

時代に対応したテーマを、読者の立場でわかりやすく。「そこが知りたい」が読める林業関係者必須の情報誌。

新たな林業施策や技術など、林業の最新動向・情報を掲載。「現場主義」をモットーに、地域レベルでの林業展望、木材の利活用、山村振興などをテーマにした取材。林務担当者に役立つ解説。

話題のテーマをフォーカスする「特集」(一部)

- ・人材育成・起業・行政支援
 - 林業で移住・定住化を図る市町村の戦略
- ・森林環境譲与税実践事例Ⅰ
 - 森林整備・間伐・路網整備・森林調査
- ・やりがい、労働環境改善、人づくり
 - 造林・育林ビジネスの可能性
- ・今、ICT林業のために使える技術とは？

多彩な情報・連載コーナー

- ・市町村職員のための森林経営管理制度実践アドバイス
- ・木材トレンドを読み解く・普及員実践日誌
- ・お役に立ちます！最新研究紹介
- ・飛田京子の安全談義
- ・チャレンジする林業現場の課題を追って
- ・読者のお悩み相談、ほか

全国林業改良普及協会 編
A5判 80頁

12 特集
森林環境譲与税実践事例Ⅰ
森林整備・間伐・路網整備・森林調査

14 読者アンケート
読者アンケートの結果を踏まえて、今年の特集テーマを決定し、読者の声に答えるべく、読者のみなさんにアンケートを実施しました。

21 読者アンケート
読者アンケートの結果を踏まえて、今年の特集テーマを決定し、読者の声に答えるべく、読者のみなさんにアンケートを実施しました。

31 読者アンケート
読者アンケートの結果を踏まえて、今年の特集テーマを決定し、読者の声に答えるべく、読者のみなさんにアンケートを実施しました。

12 特集
人材育成・起業・行政支援
林業で移住・定住化を図る市町村の戦略

14 読者アンケート
読者アンケートの結果を踏まえて、今年の特集テーマを決定し、読者の声に答えるべく、読者のみなさんにアンケートを実施しました。

23 読者アンケート
読者アンケートの結果を踏まえて、今年の特集テーマを決定し、読者の声に答えるべく、読者のみなさんにアンケートを実施しました。

31 読者アンケート
読者アンケートの結果を踏まえて、今年の特集テーマを決定し、読者の声に答えるべく、読者のみなさんにアンケートを実施しました。

12 やりがい、労働環境改善、人づくり
造林・育林ビジネスの可能性

14 読者アンケート
読者アンケートの結果を踏まえて、今年の特集テーマを決定し、読者の声に答えるべく、読者のみなさんにアンケートを実施しました。

29 読者アンケート
読者アンケートの結果を踏まえて、今年の特集テーマを決定し、読者の声に答えるべく、読者のみなさんにアンケートを実施しました。



毎月、林業現場で働く女性たちが表紙を飾ります

ご購入のお申込・お問い合わせ先

群馬県林業改良普及協会(群馬県林研グループ連絡協議会)

〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1丁目10番7号
群馬県公社総合ビル6階

TEL 027-280-6259

FAX 027-255-6265

e-mail gun-fukyu@tiara.ocn.ne.jp

群馬県リサイクル緑化協会会員 ISO 9001 / 14001 / 45001 認証



上毛緑産工業株式会社

代表取締役 高橋 範行

◆ 本社 〒370-3607 群馬県北群馬郡吉岡町小倉 827-87 TEL 0279-54-7723 FAX 0279-54-8603

◆ 仙台営業所 〒983-0005 宮城県仙台市宮城野区福室 4-2-35 TEL/FAX 022-786-1406

◆ 上ノ原試験研究所 〒377-0000 群馬県渋川市上ノ原 3223-4 TEL/FAX 0279-24-3453

URL <http://www.jouryoku.com/> E-Mail webmaster@jouryoku.com

令和四年一月一日 発行

森林土木事業を通じて、山村の安全・安心と山村振興に貢献

群馬県森林土木建設協会

会長 山藤 浩一

〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-10-7(群馬県公社総合ビル6階)

☎ (027) 280-6256 FAX (027) 255-6265

E-mail: gun-sidokeki@tiara.ocn.ne.jp

表紙の写真

令和3年度群馬県森林土木写真コンクール最優秀賞受賞作品 題名「暮らしを守る治山事業」
撮影場所 渋川市中郷(天神)地内 撮影者 (一財)群馬県森林・緑整備基金 今井 利幸

総合建設業

確かな技術で豊かな未来を



B C P 認定企業
ISO 9001 認証取得

株式会社 木暮組

代表取締役 木暮 唱

〒379-1115

群馬県渋川市赤城町溝呂木452

TEL : (0279) 56-2811 (代表)

FAX : (0279) 56-5428

～ 森と緑と笑顔のために ～

一般財団法人 群馬県森林・緑整備基金

〒370-3503 群馬県北群馬郡榛東村大字新井2935

群馬県林業試験場 別館内

TEL 027-386-5901 FAX 027-386-5902

発行責任者 群馬県林業改良普及協会
印刷者 杉浦印刷株式会社